

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川陽平殿

報告日付：平成29年11月10日

■事業内容

- 「瀬戸内アートクルーズ（尾道エリア発着クルーズ）」の実施

【テーマ】

瀬戸内海に触れ、感じられるプログラム等を実施することにより、瀬戸内広域周遊のきっかけづくりを行うこと等で瀬戸内のブランド化を図る。※事業目的より抜粋

1. 名称：「海と山のアート回廊クルーズ」
2. 時期：平成29年9月23日（祝）・10月7日（土）・8日（日）・14日（土）・15日（日）・10月21日（土）・22日（日）・11月5日（日）の計8本のツアーを企画・広報
3. 場所：尾道港・三原港発着～生口島（瀬戸田）・小佐木島・鞆の浦・百島～尾道港・三原港
4. 参加者：広島県+岡山県、兵庫県等周辺地域在住者

■事業目標の達成状況

【申請時の目標】 ※事業計画より抜粋

1. クルーズ船の運航により瀬戸内のアート（歴史遺産、歴史建造物、伝統芸能）に触れる機会を創出、また、新たな航路を試験的に運航する事で、新ルート形成や旅行会社への新商品造成を働きかけ、2017年度に1ルート以上の新規航路就航を目標とする。
2. 海の体験プログラムについては、瀬戸内海を楽しむ重要なファクターとして、広域連携で事業者紹介、参加への動機づけ、海との触れ合い機会を増やすことを目標とし、隣接する他地域事業者への連携、ネットワーク構築を促す。
3. テーマ発信による訪問客の増大、瀬戸内を楽しむプログラムの開発を通し、海に生きる瀬戸内圏域の事業者連携を強化し、訪問客の満足度を向上（クルーズツアー参加者のアンケートによる「満足・やや満足」回答率：70%以上を目標）させる。

4. 海に囲まれている日本でありながら、海に親しむ機会が減り、改めて触れると多くの気付きを得られる事を参加者に知っていただいた上で、瀬戸内海エリアにおいて多種多様なクルーズを提案、展開していく一方、定期路線の認知度向上も図り、海への関心をさらに広く高めて行く（クルーズツアー参加者のアンケートによる「今後も海を楽しみたい」回答率：60%以上を目標）。

【目標の達成状況】

1. チャーターによるクルーズ船の運航を実施したことで、日常的には観ることの困難な視点（海上）や、通常の交通機関ではアクセスが難しい場所（百島・小佐木島など）の瀬戸内アートを鑑賞する機会を創出出来た。
尾道周辺の瀬戸内海に対する注目度が上昇する中で、尾道市のベラビスタマリーナを母港とするクルーズ客船「guntū」（ガンツウ）が10月17日に新規で就航となり、尾道を発着する航路で新たに営業を開始したことが全国から注目を集め、その船体の外観や構造、サービスの内容をはじめとして大きな反響を呼んだ。
なお、尾道に隣接する三原では、三原港を発着する大久野島への航路が2017年の4月に新規就航し、2018年度も継続運航されることが決定している。
2. 県内で船を活用したツアー造成に実績のある旅行会社（尾道観光協会）と連携して企画・実施したことで、船会社をはじめとした地域事業者のネットワーク拡大、事業の意義や関係者への意識醸成を含めた告知が一定程度出来たと考える。
3. 広島県と連携し、観光課が実施の「海と山のアート回廊」事業の一環と位置付け、県知事のマスコミ発表・記者会見でも取り上げ、地元のメディア（主に中国新聞）での告知を中心に、各地にパンフレットを配布して広報活動を行った。
結果として、9月23日は催行人員に達せずやむなく催行を中止し、10月21日・22日は台風接近による悪天候により直前にやむなく催行を中止したものの、事業計画の4本を上回る下記の5本を実施することが出来た。

<実施日と参加者数>

2017年10月	7日（土）	12名（+関係者3名）
2017年10月	8日（日）	15名（+関係者3名）
2017年10月	14日（土）	5名（+関係者3名）
2017年10月	15日（日）	5名（+関係者3名）
2017年11月	5日（日）	22名（+関係者3名）
計		59名（+関係者15名）

なお、アンケート集計の結果、クルーズツアー参加者のアンケートによる「満足・やや満足」回答率が69.0%と、あと1ポイントで目標の70%に届くところまで満足度を上げることが出来たことで、事業の確かな手ごたえを感じられた。

4. ツアー実施中における各種アートの解説を、芸術の専門家である尾道市立大学の教官に担っていただいたことで、参加者がアートと海のかかわりを再認識し、多様な文化を理解いただくとともに、専門的な知識を提供出来た。

なお、アンケート集計の結果、クルーズツアー参加者のアンケートによる「今後も海を楽しみたい」回答率が70.1%と、目標の60%を10ポイント以上上回り、参加者の海への関心をさらに広く高めて行ける一助となることが出来た。

■事業実施によって得られた成果

広島県が実施の「海と山のアート回廊」事業と連携したことで、TVでの広島県知事の記者会見放映をはじめとしたマスコミによる各種報道がなされ、JRの駅などに「海と山のアート回廊」のポスターが掲出されるなど、注目を集めた。

参加者のアンケートからも、通常陸地から眺める各種アートを海から鑑賞したり、船で海から上陸して散策すると、全く違って目に映ることへの驚きを感じ取れる。

何よりも、著名な現代アーティストによるエリア各地でのイベント開催に合わせてツアーを企画・実施したことで、美術館、屋外、観月会、映画館、廃屋・廃校再生などの多種多様な場面で参加者がさまざまな形態のアートに触れ、ひいてはそのアートを生んだ瀬戸内海との繋がりを再認識したことが最大の成果と考える。

■成功したこととその要因

広島県が実施の「海と山のアート回廊」事業と連携したため、通常では開催されない注目度の高い各種イベントや訪問先をツアー内容に盛り込んだことで、参加者にとってはいい意味での非日常性が高まった上、イベントを主催するアーティストとサプライズで会える場面や、通常見ることの出来ないアートを観賞出来たことで、満足度が高まったことは成功と言って良いと考える。

■失敗したこととその要因

合計8本のツアーを設定したものの、連携した広島県側の行政特有の手続き上の事情により、広報の開始時期が予定の8月上旬から9月上旬となり、9月に企画したツアーの集客が思わしくなく、結果として催行中止に至ったことは失敗と言わざるを得ない。

旅行シーズンのピークである10月にも、台風の接近によりやむなく2本の催行を中止せざるを得ず、楽しみにしていた参加予定者には残念な思いをさせてしまった。

■実施日別レポート

<10月7日>

参加者12名+添乗員1名+アートガイド1名+財団事務局1名の計15名で出発。出発時は小雨だったが、次第に雨が強くなり、瀬戸田港での折元立身氏プロデュースによるアートイベント「50人の島のおばあさんのランチ」が1時間半ほど遅れて開催された。



※折元立身プロデュースイベント「50人の島のおばあさんのランチ」開催風景

しおまち商店街を散策し、瀬戸田のベルカントホール周辺をはじめとした現代アートを解説付きで陸からも海からも鑑賞した後、観月会会場へ移動。



※陸上でのアート解説

※船上でのアート解説

当日はあいにくの小雨模様であり、月を観賞出来たのは会場を後にした船上からとなったが、観月会のイベントそのものは地元あげての一大イベントであり、海上に設置されたアートを舞台に、漆黒の海をバックに繰り広げられる舞踊や奏楽のパフォーマンスは、参加者が非日常性を感じるのに十分な雰囲気であった。



※「観月会」開催風景

< 10月8日 >

参加者15名+添乗員1名+アートガイド1名+財団事務局1名の計18名で出発。
三原港から小佐木島へ渡り、ポエック財団運営の古民家を活用したアート展示を観賞。



※小佐木島にて、ポエック財団の担当者より解説

瀬戸田へ渡り、しおまち商店街を散策し、瀬戸田の各アートを解説付きで陸からも海からも鑑賞した後、尾道市街の「海と山のアート回廊」特設アート会場である「旧絵のまち館」と「yumenemi ギャラリー」を観賞し、ロープウェイで千光寺山へ登って尾道市立美術館にて草間弥生の作品を中心としたアート特別展を鑑賞。
昼食がやむなく船上での弁当となった点以外は、参加者におおむね好評であった。



※「旧絵のまち館」にてアート・マネジメント・しまなみの担当者より解説

<10月14日・15日>

いずれも参加者5名+添乗員1名+アートガイド1名+財団事務局1名（14日のみ）の計8名（15日は7名）で出発。

尾道港から鞆の浦へ渡り、開催中のイベント「鞆の浦 de アート 2017」を鑑賞・散策したのち、「ART BASE 百島」のある百島に上陸。



※「ART BASE 百島」企画展の現地案内板 ※「日章館」のアート展示例

廃校を活用した「アートベース百島」、廃止された映画館を活用してアート展示をしている「日章館」、古民家を再生して塩のアートを展示の「五右衛門風呂の家」などを観賞した後尾道港へ戻り、倉庫を活用した「県営上屋3号」での巨大アートを観賞して解散となった。



※百島五右衛門風呂の家で塩のアートを見学

< 11月 5日 >

参加者22名+添乗員1名+アートガイド1名+財団事務局1名の計25名で出発。
尾道港を出発後、「ART BASE 百島」のある百島に上陸。



※「ART BASE 百島」アート鑑賞風景

※「五右衛門風呂の家」の五右衛門風呂

廃校を活用した「ART BASE 百島」、廃止された映画館を活用してアート展示をしている「日章館」、古民家を再生して塩のアートを展示の「五右衛門風呂の家」などを鑑賞した後尾道港へ戻り、古い倉庫を活用した「Onomichi U2」のレストランで昼食。これも古い倉庫を活用した「県営上屋3号」で巨大アートを観賞し、「シネマ尾道」で石内都+小谷忠典監督によるトークおよび「フリーダ・カーロの遺品—石内都、織るように—」を観賞して全てのツアーが終了した。



※「ART BASE 百島」アートの例 ※「ART BASE 百島」職員による解説



※「Onomichi U2」食事前の館内 ※「シネマ尾道」館内



※最後に、ツアー参加者にて海をバックに記念撮影

以上